

<フォーマルなインフォーマルミーティング>

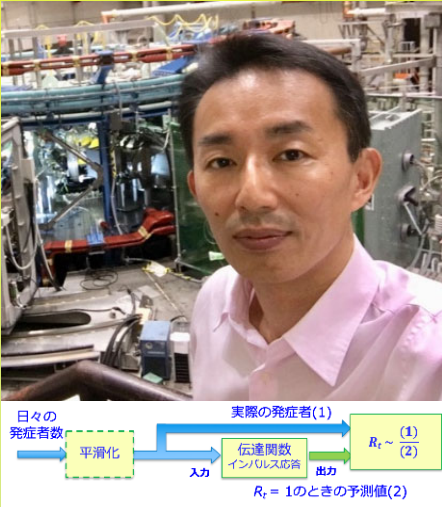
# プラ核研究者による新型コロナ禍の分析

プラズマ・核融合学会第37回年会

日時：令和2年12月1日(火)18:15-19:25

【リモート開催】

『With CORONA』の時代、生活の様々なところでコロナ感染症対策による制限を受ける状況が続いています。今回のインフォーマルミーティングでは、コロナ感染症の拡大・収束を記述する数理モデルや、人と人との接触による感染の統計モデルの構築に挑戦しているプラズマ・核融合研究者による講演会をオンライン開催します。



拡大か収束か：

実効再生産数  $R_t$  の物理的意味と時系列解析

門 信一郎 (京都大学エネルギー理工学研究所)

18：15－18：45

電子回路やシステム制御の分野で広く使われる「伝達関数」の考え方に基いて実効再生産数 $R_t$ を求めます。「社会的・経済的要因を考慮に入れながら合理的に達成できる限り」の低リスクにコントロールする指標の一つだと思います。日常的にデータ解析を行っている皆様に聞いて頂けると幸いです。

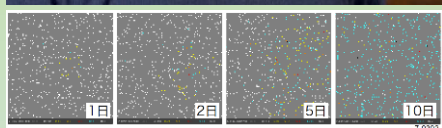


プラズマシミュレーションの新型コロナ  
ウイルス感染症のモデリングへの応用

佐々木明 (量子科学技術研究開発機構)

18：45－19：15

報道などで公表され、入手できる情報をもとに、流体モデル、原子過程モデル（衝突輻射モデル）のような、プラズマ研究で使っているシミュレーション手法を使い、新型コロナ禍の分析を行う可能性、問題点について紹介を試みます。



19:30から恒例の懇親会をリモートで行います。ブレイクアウトセッションで懇親を深めたいと思います。

対象： ①一般の方 (プラ核学会の会員を対象)  
②学生 (会員・非会員を問いません)

申し込み先：<https://forms.gle/gTFEvHFUGMfeCyp79>

(申し込み頂いた方に本講演会のアドレスを記載した招待状をお送りします) 締め切り：11月27日(金)

近藤正聡(東工大), 有川安信(阪大), 後藤拓也(NIFS), 浜地志憲(NIFS)

申し込み先QR

